

説教題：「罪と病い；祈りと信仰；告白と癒し」

聖書朗読：ヤコブの手紙 5 章 13-20 節

¹³あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。¹⁴あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。¹⁵信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。¹⁶ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働く、大きな力があります。

¹⁷エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。¹⁸そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました。

¹⁹私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、²⁰罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。

おはようございます、皆さん。またお会いできて嬉しいです。この4か月間、私は新約聖書の中で好きな書物であるヤコブの手紙を解説する一連の説教を行ってきました。多くの人々がこの書を愛するのは、キリスト者として生きる上で実践的な教えが数多く記されているからです。本日は、この書の終わりに差し掛かりました。先ほどお聞きいただいたヤコブの手紙 5 章の聖書朗読が、この書の最後の部分です。

今日の聖書についてコメントする前に、ヤコブの手紙全体の要点を振り返りたいと思います。実際、今日はこの書の中で学んだ主要な教訓を振り返るのに、講話の半分を費やすつもりです。そして、今日の聖書朗読が手紙の冒頭で読んだ内容に平行する形で始まったことは私にとって興味深いことです。それは、試練の中で祈り、信仰を持って祈るようなとの訓戒です。

この書の中の最初の訓戒は、ヤコブ 1:2-3 の中にあります－「2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。3 信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。」

試練に遭遇することは、実際には私たちに歓迎されるべきです。なぜなら、適切に反応すれば、試練は私たちの信仰を試し、忍耐を生み出し、それが成熟につながるからです。4 節にそう書かれています。次に 5 節では、適切に反応するための知恵が足りない場合は、神にそれを求めるべきである、すなわち祈るべきであると言っています。しかし、6 節では、信仰をもって求めなければならないと言っています。これはヤコブの 5 章に書かれていることと平行しています。

ヤコブの手紙 1 章 9-11 節では、富んでいる人と貧しい人について簡潔に論じられています。これは先週のメッセージで取り上げた主題です。富んでいる人は、命も富もやがて消え去ることを心に留め、神の前で謙遜であるべきです。自らを偉大だと思わず、この地上での時間が限られたただの人間であることを自覚すべきです。一方、物質的に貧しい

クリスチャンは、神が彼らを尊び、神の子として尊い地位に置かれていることを知るよう励まされています。

1章は、誘惑、欲、罪、そして死についての考察が続きます。ヤコブ 1:13-14 - 「**13** だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってははいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。 **14** 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。

神を誘惑のせいにしてはいけません。危険はあなたの心の中にあります：欲望はあなたの心の中にあります。誘惑に直面するとき、それに導かれるのはあなたの内なる欲望です - もしあなたがそれを許せば。聖書の言葉、15節 - 「**15** 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」 これがそのプロセスです：もしあなたがその誘惑に惹かれることを許せば、心の中の欲望がはらみ、それが罪に繋がり、そして罪を続けることは最終的に死につながります - 永遠の死と神との分離です。しかし、あなたは自分の人生の中で罪がこの過程を追従させることを許す必要はありません - このプロセスの数回のポイントで、それを止めることができます。欲望が芽生えるのを拒むには、誘惑から背を向け、それにふけることをやめればよいのです。あるいは、もし罪を犯したなら、すぐに過ちに気づき、その罪を悔い改め——罪から離れる——そして神の赦しを求めることで、その過程を止めることができます。神は赦すことを熱望しておられます。旧約聖書と新約聖書の多くの箇所が繰り返し述べているように。これらの聖句は、誘惑に直面する若者として私にとって非常に助けとなりました。この過程のいくつかの局面で、私は欲望や罪深い行いにこれ以上踏み込まないことを拒み、もはやそれにふけることを拒み、それから背を向けるタイミングを得ました。

ヤコブ 1:21-22 は人生のためのもう一つ他の重要な規範を私たちに語り続けます。「**21** ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。**22** また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」

人生のあらゆる汚れを捨て去り.....謙遜をもって心に植え付けられた神の御言葉を受け入れなさい。そして、ただ聞く者ではなく、御言葉を行う者であることを証明しなさい。つまり、神の言葉から聞いたことを実践するということです。単にそれを聞くだけでなく、ページに書かれていることを単に読んで忘れてしまったりしないでください。神の言葉をあなたの人生で実践しないならば、あなたは正しいクリスチャンの弟子ではなく、ただの聞き手であるのです。自分を欺かないでください：単に教会に来て言葉を聞くことだけでは救われません。神を信頼し、彼の言葉を実践することこそが、あなたの魂を救うのです。

2章に移ると、教会で人々にひいきをしないようにという訓戒から始まります。私たちは、裕福な人々に対して貧しい人々よりもより多くの配慮や敬意を持って接するのがあまりにも簡単ですが、そのような態度や行動を持ってはならないと教えられています。私たちは皆、神の前で平等です。

2章の後半は、信仰と行いの間の関係やそれらが私たちの救いに果たす役割という、時に混乱を招く問題を扱っています。ヤコブ 2:14-16 - 「**14** 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。**15** もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、**16** あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。」

そのような信仰は何の役に立つのでしょうか？ 敬虔な言葉ですが、役に立つ行動はありませんか？ 数ヶ月前にこの箇所についてのメッセージを伝えた際に、私は真の信仰は行動によって表れることを指摘しました。私たちは行いによって救われるわけではありません。聖書の多くの箇所がそれを確認していますが、行動に現れない信仰は救われている信仰ではありません。**真の信仰は行動します** – それが数ヶ月前にあなたに伝えた教訓です。

3章は非常に厄介なものについて扱っています。この厄介なものは小さな存在ですが、驚くほど破壊的になることがあります。私は私たちの体の厄介な部分、つまり舌について話しています。私たちの発言は様々なトラブルを引き起こす可能性があります。ヤコブは教師に焦点を当てて議論を始めます。ヤコブ 3:1- 「**1** 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。」教師たちは、格別きびしいさばきを受けるのです。すごいことです。教会での教師であることは深刻なことであり、私はそれを自分に常に思い出させています。教師たちは多くを話しますので、残念ながら発言で誤りを犯す機会も多くなります。彼らは細心の注意を払わねばなりません。聖書に基づく教えにおいては慎重であるべきであり、また教育の場外での会話においても細心の注意を払わねばなりません。

れる機会が多くなります。彼らは非常に注意深くある必要があります。彼らは自分たちの発言に非常に注意を払わなければなりません。

1節は、章の残り部分への導入であり、私たち全員がどのように話すべきかについて注意深くあるべきであることを示しています。私たちのそれぞれが他の人々に無神経で傷つける言葉をどれだけの回数言ったことでしょうか？ 家族に、同僚に、キリストにある兄弟姉妹に。5節 – 「**5** 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。」この小さな舌は、非常に多くのダメージを与えることができます。

先週、お話ししたように、そして私たちが 3章の残り と 4章に入って読んだように、私たちの口から出る言葉は私たちの心にあるものを示しています。以前のメッセージでもお話ししたように、私たちは心の問題を抱えています。もしあなたが心に良い、神にかなった思いを満たせば、それがあなたの言葉に現れます。しかし、もし心に醜い思いを詰め込めば、それも言葉に表れます – 私たち全員が話し手としても、傷つけられる側としても、その経験をどれだけしたことがあるのでしょうか？

ヤコブの手紙3章14節には、あなたの心の中に嫉妬や自己中心的な野心があるかもしれないと書かれています。ヤコブ4:1は言います－「1何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。」教会における紛争の根源は、私たちの心にある快樂、さらには欲望にあります。(2節に書かれています)。

それはクリスチャンが行うべき方法ではないので、ヤコブは会衆に非常に厳しい批判を与えています。4節－「4貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」彼らは靈的な不貞を犯しています。なぜなら、彼らは神と主イエス・キリストに対して忠実ではないからです。

ヤコブは私たちにその道を進まないように促し、その代わりに追求すべきことを教えてくれます。－「6しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」」私たちの人生と心は、誇りではなく謙虚さで満たされるべきです。これは大きな恵みであり、ただで与えられる贈り物です。そして、これを受け入れるなら、神はあなたにこの恵みを人生の中で活用する力を与えてくださいます。謙虚は、効果のあるクリスチャンライフと教会や他の人々との調和の取れた関係への道です。そして、これがあなた自身に個人的に益をもたらすことになります。10節－「10主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」この美德をあなたの人生に培うならば、神との関係や他のクリスチャンとの関係はより平和なものになるでしょう。

ヤコブの手紙4章7-10節は、一連の簡潔でありながら極めて重要な勧告を示しています。これが神との平和、クリスチャンの兄弟姉妹との平和、そして実りあるクリスチャンの弟子への道なのです。

神に従いなさい。

悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたから逃げ去ります。

神に近づきなさい。そうすれば、神もあなたがたに近づいてくださいます。

罪ある人たち、手を洗いきよめなさい。

二心のある人たち、心を清くしなさい。

苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。

主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主はあなたを高くしてくださいます。

以前のメッセージで申し上げた通り、**謙遜な姿勢**を身につけることは人生において極めて重要です。これは自分自身のためにも、教会内の人間関係のためにも有益です。この原則に従って生きるならば、4章と5章が示すように、兄弟姉妹を不当に批判することはなく、神が私たちの人生を主権をもって治めておられることを謙虚に認めながら歩むことができるでしょう。

ヤコブの手紙 5 章 7-8 節で、彼は私たちに忍耐強くあり、心を強くするよう勧めています。霊的な成長には時間がかかり、私たちはこれを育むために熱心に努めなければなりません。12 節では、自分の言葉には誠実であるよう命じられています。そして、それが先週のメッセージの締めくくりでした。

それでは、5 章の後半にある今日の箇所を詳しく見ていきましょう。ヤコブ 5:13-14 – 「**13** あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。**14** あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。」

人生のどこかで、誰もが苦しみを経験します。同時に、誰もが喜びの時も味わう。喜びへのふさわしい応答は、主を賛美することです。苦しみの応答としてふさわしいのは、不平や絶望ではなく——祈りです。

苦しみの痛みにもかかわらず、私たちは希望を失いません。なぜなら神は今もすべてを主権的に治めておられるからです。先週見たヨブという男性の経験や、（ヤコブが 10-11 節で言及する）旧約の預言者たちの経験からもわかるように、私たちは希望を失わず、むしろ忠実であり続け、苦しみに耐えるのです。そうすることで、霊的な報いがあるだけでなく、私たちの忠実さは神を賛美する良い証しとなるのです。この墮落した世界での生活は時に苦しみを伴います。私たちは旧約の預言者たちのように、忠実であり続けるよう召されています。

祈りなさい。私はピリピ人への手紙 4 章 6-7 節を思い出します。これはたまたま、私が新約聖書の中で二番目に好きな書物からの一節です。「**6** 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。**7** そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

心配してはいけません。あなたの願い事を神に知らせてください。そうすれば平安が訪れます。私は長年この聖句を黙想する中で、主に向かって祈り、願い事を捧げると同時に過去の恵みに感謝し、その後その事柄を主の手に委ねるというイメージを得ました。こうして、祈った問題が何であれ、もはや心配する必要はなくなるのです。私はそれを主の手に委ねたのです。私は平安でいられます。もちろん状況によっては、祈ると同時に何らかの行動を取る必要がある場合もありますが、時には取るべき行動がないこともあります。行動を取れるかどうかに関わらず、私たちは祈り、その事柄を主に委ね、その後はもう心配する必要はありません。私たちは平安でいられるのです。

ヤコブの手紙 5 章に戻りましょう。13 節にはこう記されています。「あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。」苦しんでいるなら祈りなさい。喜びにあふれているなら賛美を歌いなさい。」そして、14 節はこう記されています。 – 「**14** あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。」ここで、ある行動が取られます：病人は一人で苦しむのではなく、長老た

ちに祈りを求めます。彼らは彼のために祈り、油を塗って祝福します。この油を塗る祝福とは何でしょうか？

聖書注解者たちはこの問いに対して様々な答えを出してきました。この油注ぎには、神の恵みを授け、癒しをもたらすような秘跡的な目的があるのでしょうか？私が最も共感する注解によれば、この節を強く秘跡的に解釈するのはおそらく根拠がないと言います。あるいは、この油による油注ぎは純粋に医療的な性質のものであって、霊的なものではないのかもしれませんが。若い頃に聞いた説教でこの見解が強く主張されていたのを覚えています。私にはその解釈は決して正しいとは思えませんでした。様々な病状にはそれぞれ適した薬があるからです。それで、この箇所が油だけに焦点を当てていることから、その主目的は医療的ではないように思えます。今週、ダグラス・ムーの解説書が私の考えに同意していることを知って、嬉しく思いました。

最も可能性が高いのは、油による塗油が旧約聖書に記された聖別の出来事を想起させる点です。例えば出エジプト記 28 章 41 節では、アロンとその子らが油を注がれ、神の祭司として聖別されています。王もまた油注ぎを受けます——例えばサムエル記 第一 10 章 1 節ではサウルが、同 16 章 13 節ではダビデが油注がれています。聖書神学者ダグラス・ムーはヤコブの手紙 5 章 14 節の注解でこう述べています。

油注ぎは旧約聖書において、人や物を神の御用と奉仕のために聖別することを象徴することが多い。典型的な例は出エジプト記 28:41 である。...この用法は新約聖書でも継続・拡大され、油注ぎはしばしば神への奉仕への聖別を比喩的に表す（ルカ 4:18 [=イザヤ 61:1]；使徒の働き 4:27; 10:38; II コリント 1:21; ヘブライ 1:9 [=詩篇 45:7]）。もしヤコブがこの背景を念頭に置いているなら、彼は長老たちが病人を油注ぐことを勧めていることになる。それは、その人が祈りの中で神の特別な配慮のために聖別されていることを鮮明に示すためである。

この油を塗ることは、病人が祈りの中で神の特別な配慮を受けるために選ばれていることを鮮明に示しています。

ヤコブ 5:15 を読みましょう – 「15 信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。」この祈りは信仰をもって捧げられるべきです。ヤコブがその後、罪について言及している点が興味深いです。病人が罪を犯していたなら、それは赦される。罪と病気の間には関連性があるのでしょうか？

これは、第二次世界大戦中にユダヤ人を自宅に匿って救ったオランダ人女性、コリー・テン・ブームの生涯で読んだ出来事を思い出させます。彼女が最初に書いた本は『隠れ家』という題名で、ご存知かもしれません。二冊目の本は『主のための放浪者』と題され、戦後の彼女の世界的な宣教活動について記されています。その第二巻の冒頭で、彼女が体調不良に陥った際、癒しの賜物を持つ牧師が祈りを捧げるために呼ばれた出来事を鮮明に覚えています。意外にも、その牧師はコリーに「告白していない罪はありませんか」と尋ねました。答えは「はい」でした。その罪の詳細は覚えていませんが、おそらく誰かへの恨みを抱えていたのでしょう。驚くべきは、癒しの賜物を持つと言われる牧師が、まず「告

白されていない罪を抱えている可能性」を見抜く識別力の賜物を示したことでした。コリーはその罪を告白し、牧師が祈ると、彼女は癒やされたのです。

ヤコブ 5:16 – 「16 ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」もし私たちの生活に罪があるなら、その罪が健康に影響を与えている可能性があります。病気が必ずしもその人の生活に罪があることを意味するわけではありませんが、その可能性はあります。ヤコブは仲間のクリスチャンたちに、互いに罪を告白するよう勧めています。もし誰かに罪を犯したなら、その人に直接行って告白すべきです。

山上の垂訓において、イエスは神殿で捧げ物をしている人に対してこう語られた。 マタイ 5:23-24 – 「23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。」

ヤコブの手紙 5 章 16 節に戻りましょう。「互いに罪を告白し合いなさい。また、互いのために祈りなさい。病の原因となる罪があるなら、それを告白すれば癒しが起こり、体験できるのです。」16 節の二番目の文を見てください。「… 義人の祈りは働くと、大きな力があります。」心と行いの両面で生活を整え、キリスト教の基準に従って生きているなら、あなたの祈りには大きな力があります。これはキリストの弟子である私たち誰にでも与えられているのです。

ヤコブ 5:17-18 を見てください – 「17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。18 そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました。」

私たちはエリヤを、数々の英雄的行為を成し遂げた偉大な預言者として思い描きます。それは私たちには到底成し得ないことのように思えます。しかしヤコブはここで、単純な事実を強調しています。「エリヤは私たちと同じ性質を持つ人間であった」と。彼の性質は他の人間と何ら変わりませんでした。しかし彼は召命に従順であり、熱心に祈ると神は応えられました。再び熱心に祈ると、神は再び応えられました。あなたと私にも、効果的な祈りを持つ同じ能力があります。人生の罪を清め、誠実な心を持ち、信仰をもって祈ってください（神が応えられると確信して）。そうすればあなたもまた、多くのことを成し遂げる祈りを持つことができます。

今日の聖書箇所は、ヤコブの手紙の結びの言葉です。この結びは、例えばパウロの手紙の結びとは大きく異なります。しかしパウロの手紙は、しばしば祈りと正しい生活への勧告で締めくくられています。ここでもヤコブは祈りと、罪を捨て去らねばならないという本質的な真理に焦点を当てています。この手紙の最後の二節は、福音のメッセージの核心、すなわち罪から離れ、神からの救いを受けることへと至るのです。

ヤコブ 5:19-20 – 「**19** 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、**20** 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていないさい。」

ヤコブは手紙の中で、クリスチャンとしての生き方について多くの実践的な勧告を与えています。どの教会もこれらの言葉を聞く必要があります。新約聖書のすべての書簡には、特定の罪を捨てるよう勧める言葉が含まれています。なぜなら、まだ完全なクリスチャンは存在せず、私たち全員がこの教えを必要としているからです。**19** 節でヤコブは、教会の中に、彼が与えた教えから迷い出て、手紙で述べた罪深い態度や行動のいずれかに陥る者たちがいるかもしれないと会衆に告げています。私たちはそのような者に立ち返り、悔い改めるよう呼びかけねばなりません。**20** 節は、もしその者が過ちから離れるならば、私たちは彼を救ったことになる—すなわち彼の罪は覆われたと述べています。罪が「覆われる」とは、完全に消し去られ、完全に消え去り、もはや私たちの責めとして数えられなくなることを意味します。

今日のメッセージを一つの問いで締めくくりたいと思います。あなたの心には何がありますか？ヤコブの手紙 4 章で学んだように、争いや対立の根源は、私たちの心に宿る自己中心的な欲望と誤った動機にあります。3 章では、私たちの心にある苦い妬みと自己中心的な野心が、悪意に満ちた言葉へとつながることを学びました。また 3 章では、人間の理屈について読みました。私たちはそれを捨て、代わりに神から来る知恵を求めるべきです。2 章では、貧しい人よりも富める人を尊ぶために私たちが実践する偏った扱いを学びました。そして 1 章では、私たちの内に宿る欲望について学びました。この欲望は、その過程を止めなければ、誘惑に陥り罪を犯すことにつながりかねません。また、疑いなく信仰をもって祈るよう勧められています。疑いは二心であり、私たちの生活を不安定にするからです。

あなたの心には何がありますか？自己点検をしてみてください。あなたの心には、欲望...あるいは自己中心的な野心...あるいは二心...あるいは人間的でこの地上の論法が宿っているのでしょうか？ヤコブ 4:8b – 「…罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。」心を調べなさい、そして心をきよめなさい。

最後に、詩篇 51 篇にあるダビデ王の祈りを引用して締めくくりたいと思います。(10, 12、と 13 節) – 「**10** 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。…**12** あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。**13** 私は、そむく者たちに、あなたの道を教えましょう。そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りましょう。」

もし私たちが人生から罪を取り除き、主によって心を新しくしていただくことで心の問題に対処するなら、人間関係に調和が生まれ、神との平和が与えられ、そして周囲の人々に対してイエス・キリストの効果的な証人となることができるのです。